



ありがとうの秋

第38回松の実運動会には、ご家族揃ってご参加いただき、ありがとうございます。笑顔と拍手に託して頂いた沢山の金メダルを胸に、子どもたちは一段とたくましくなり、生活態度の総てに自信が満ちあふれています。

また夢中になって頑張っていたお父さんお母さんたちに憧れ、一緒に楽しんでくれたおじいちゃんおばあちゃんや、大きくたくましくなった小学生への敬意と信頼が優しくふくらんで来ているように感じています。

これは、運動会閉会式のご挨拶の中で、野田会長様が「子どもたちをいっばい褒めてあげて下さい。」とおっしゃったことを、夫々のご家庭で実行されたことが子どもたちの今の姿に表れているのであるのだと、職員一同感謝申し上げます。

子どもがどの子ももれなく、夢中になって生きていける明るい社会であって欲しい。

そのために、園でも家庭でも地域でも、「こんなに楽しい」「こんなに頑張れる」「こんなに大好き」ということを運動会を節目にあらためて子どもたちに見てもらい、感じてもらうようにしたいと思っています。

次の楽しみが待っています。

10月6日は「お芋掘り」です。中川農園のおじいちゃん(中川はると君・ゆいと君、田村くるみちゃん)のおじいちゃんです。が「今年の出来は良さそうだ。」と目を細めておっしゃって下さいました。あの猛暑の日々、毎日畑でお芋のお世話をされた中川おじいちゃん、子どもたちへ贈るあたたかい言葉です。

中川農園でのお芋掘りは、当時も園児のおじいちゃんだった中川さんが畑を提供し、さつま芋の苗を植えて丹精込めて育てて下さったさつま芋を掘らせていただいで以来、10年近く続いています。

農作物も庭の花木も、毎日手抜きなく可愛がって世話を続けなければ育たないのです。

水や肥料を欠かさず、草取りをしたりつる返しをしたり、枝葉やつぼみの状態を整えたりする手入れを毎日続けてようやく実り、花も咲く。

収穫の後には「ありがとう。よくぞ育てくれました。」と、感謝を込めて

礼肥を欠かしてはいけないよ、と教わりました。

どんなに手を尽くしても「育てた」のではなく「よくぞ育てくれました」と。

そういう謙虚さが、子どもが夢中になって生きていける社会を支える力になるのだと確信を重ねてきた実りの秋です。

子どもたちへ向ける「嬉しいよ」「ありがとう」に、特別な思いで取り組みたい10月を迎えます。

園長 福田孝子